

アジアインフラ投資銀行関係者の発言

田中 修

はじめに

3月22日から開催されている国務院発展研究センター主催の「中国発展ハイレベルフォーラム2015」において、アジアインフラ投資銀行関係者の発言が相次いでおり、本稿ではその概要を紹介する。

1. 金立群 臨時準備事務局長（新華網北京電 2015年3月22日、経済参考報 同3月23日）

アジアインフラ投資銀行は、明白な時代の特徴を帯びたマルチ開発金融機関である。中国がアジアインフラ投資銀行設立を提起した目的は、アジア地域インフラの資金調達需要という巨大な客観的需要をできるだけ満足させるためであり、中国がより多くの責任を負担することを通じて、アジア地域の協力と多くのウインを促進するものである。

アジア開発銀行の試算によれば、現在から2020年までの期間に、アジア地域における毎年のインフラ投資需要が7300億ドルに達し、この資金需要を満足する方法はない。

少し前、イギリスがアジアインフラ投資銀行への申請を宣言し、アジアインフラ投資銀行創設意向メンバー国で最初の西側の大國となった。その後、ドイツ・フランス・イタリア・ルクセンブルグ・イスラエル等の国家も申請を提出し、現在関係手続を履行している。今月末が創設国になることを申請する期限であるが、最終的にアジアインフラ投資銀行創設意向メンバー国は35カ国を超える。

西側が関心を払っているアジアインフラ投資銀行の今後の運営基準と保障政策等の問題について、アジアインフラ投資銀行の核心理念は、「精銳・廉潔・グリーン」である。アジアインフラ投資銀行は高度に簡素化された機関であり、専従者は世界から招聘され、機関が大量の職員で混みあう状態を断固として途絶する。腐敗に対しては絶対容認しない。グリーン経済・低炭素経済の発展を促進し、人類・自然の調和のとれた共存を実現する。

アジアインフラ投資銀行は、インフラ投資に従事する中で、生態環境の保護・改善を十分重視し、立ち退き住民の利益を重視する。

アジアインフラ投資銀行は、全てのメンバー国が協力し共に創り上げる新しいタイプのマルチ金融機関であり、各メンバー国の利益を広範に代表し、現行のマルチ発展機関の良好な方法・経験を十分参考とし、かつこの基礎の上である程度刷新を行う。

将来のアジアインフラ投資銀行の貸出は、アジアの発展途上国に向けられ、その投資先はかなり広範であり、インフラ・その他生産関連投資に向けられる。エネルギー・電力さらに道路・鉄道・港湾等にまで及ぶ。商業主義の原則に基づいて運営される機関として、

厳格な国際基準による管理を実行し、政治的な貸出あるいは優遇貸出等は行わない¹。

国際機関として、我々はアジア地域の各発展途上国の発展・利益を重視する。我々は北米・欧州その他地域の金融機関・投資家が一緒に協力し、アジア地域の発展という豊かな収穫と共に享受することを歓迎する。海は多くの川を集めて容量はなお大きい。アジアインフラ投資銀行は、永遠に公開・透明・包容的な国際機関である。

2. 朱光耀財政部副部長（経済参考報 2015年3月23日）²

2013年、習近平国家主席がインドネシア大統領と会見した際、中国政府・中国人民を代表して正式にアジアインフラ投資銀行の設立を提起した。この提起は、アジア地域さらには世界で反応が非常に強烈であり、しかも地域内外の国家の広範な歓迎・支持を受けた。アジアインフラ投資銀行設立の目的は、アジア地域のインフラ発展と融資供給方面に存在する巨大な不足を解決し、この銀行を通じて地域内の相互連結を促進するものである。その原則は、協力・ウインウインである。

習近平主席はアジアインフラ投資銀行の備忘録にサインした代表を接見した際、特に3点を強調した。

①人心が一つになれば、泰山をも動かす

これは中国が提起したものではあるが、アジアさらには全世界の需要を反映したものであり、したがって皆が共同で努力し、この機関・メカニズムをうまく運営する必要がある。

②富もうと思えば、まず道を作らなければならない

アジアインフラ投資銀行の設立により、インフラ建設の強化を通じて経済成長を促進することができる。富もうと思えば、まず道を作らなければならないというのは、中国の経験であるが、世界で普遍的に認知されているものもある。つまり、インフラの発展は一国経済にとって非常に重要である。これがG20あるいはその他メカニズムが、いずれもインフラ発展を現在の重要議題としている理由である。このため、アジアインフラ投資銀行の設立は、世界の要求・世界の潮流を反映したものである。

③開放的・包容的でなければならぬ

アジアインフラ投資銀行は、アジア地域のインフラ発展にとって必要な発展機関である。同時に、現行の国際金融システム、とりわけ世界銀行・アジア開発銀行の補完であり、代替ではない。この体制の下、現行の発展銀行とアジアインフラ投資銀行の関係は相互補完的であり、相互支援的である。世界銀行総裁さらにはアジア開発銀行総裁がいずれもアジアインフラ投資銀行の提起を歓迎するにかかるわらず、アジアインフラ投資銀行設立以後は、同行と融資を展開することを希望する。

¹ このパラグラフが経済参考報記事であり、残りは新華社電である。

² フォーラム開催直前の経済サミットでの発言である。

3. 国際開発金融機関幹部の発言（新華網北京電 2015年3月22日）

新華社は以下のように報道している。

フォーラムに出席した樓繼偉財政部長は、再度「中国と現行のマルチ国際機関とは、協力・相互補完の関係であり、絶対競争的関係ではない」と述べた。

この観点は、3大国際機関の責任者（IMF ラガルド専務理事、世界銀行インドラワティ専務理事兼最高執行責任者、アジア開発銀行中尾武彦総裁）から、現行のグローバル・地域的国際機関とアジアインフラ投資銀行の間の協力の余地は巨大であるとの一致した賛同を得た。

ラガルドは、中国がアジアインフラ投資銀行を発起・設立することに歓迎を示した。彼女は次のように述べた。「我々は、中国が十分な理由があつてこのようなマルチ金融機関を設立するのだと思っている。私は真に IMF もインフラのために融資できるよう非常に希望しているのだが、これは IMF の使命ではない。したがって、IMF はアジアインフラ投資銀行との協力を非常に望んでいる。世界の多くの地域、とりわけアジア地域は大量のインフラの建設を必要としており、IMF とアジアインフラ投資銀行の協力の余地はより大きく、競争は比較的少ないといえる」。

インドラワティも、アジアインフラ投資銀行の設立について歓迎を表明した。彼女は次のように述べた。「世界のインフラ建設資金不足を補うため努力するいかなる提起も歓迎する。世界のインフラ建設市場は巨大であり、このいくつかの機関を受け容れるのに足りる。世界銀行は門を開け放ち、アジアインフラ投資銀行と協力する。現在、双方は既に新機関の基準・枠組みの制定等の方面において協力を展開している。協力を通じて、アジアインフラ投資銀行がその他の国際機関の原則と一致したプロジェクト基準を導入し、より持続可能な方式によってインフラ建設を推進することを希望している」。

中尾武彦は樓繼偉と一緒に講演で次のように述べた。「アジア開発銀行は、中国がどうしてアジアインフラ投資銀行を発起・設立しようとしているか完全に理解している。アジア地域は大量のインフラ投資を非常に必要としているからだ。アジアインフラ投資銀行設立後、最も良いパフォーマンスが遵守され、保護措置の採用により環境への影響を減少することが確保されさえすれば、アジア地域のインフラ投資需要をよく満足させることができる。将来両銀行は、協力を通じてアジアの発展のためにより多く貢献できる。同時に、アジア開発銀行も改革を推進し、融資能力を更に高めることを希望する」。

3大国際機関が一致してアジアインフラ投資銀行の保障政策基準等の問題に关心を払っていることについて、樓繼偉はフォーラムで次のように述べた。「アジアインフラ投資銀行は現行のマルチ機関の好い経験・方法を参考とするが、官僚主義と特別煩瑣な方法を排除する。アジアインフラ投資銀行は発展途上国主導のマルチ開発機関であり、将来発展途上国の訴え・求めをより多く考慮することになる」。

(3月24日記)